

## < 淡江大学・立命館大学 学生フォーラム >

淡江大学と立命館大学の学生が、台湾と日本の歴史を踏まえた上で、震災のある国に住む同世代の若者として共に何ができるのかについて話し合います。東日本大震災の被災地の現状や、震災が引き起こした様々な問題や学生の復興支援活動について情報共有し、ワークショップを通じて具体策をまとめ、発表します。

日時：2013年3月8日（金）

場所：淡江大学図書館 1F 交流ブース、淡水市内（地図番号 24）

参加学生（予定）：淡江大学 23名（主に日本語学科所属の学生）

立命館大学 13名（ボランティア活動を経験した学生）

内容：

### 3月8日（金）淡江大学図書館

10:30～10:30 オープニング

写真パネル展 テープカット

挨拶（淡江大学副学長、小木立命館副総長、  
池田元日本交流協会台北事務所代表）

13:00～13:50 基調講演

「Distant Suffering and Great Earthquakes」

立命館大学 共通教育推進機構 准教授

（災害復興支援室ディレクター） 山口洋典

13:50～14:50 学生発表

「震災と私」立命館大学、淡江大学（各20分）

14:50～15:00 休憩

15:00～16:00 グループワーク

16:00～16:10 休憩

16:10～17:10 グループ発表

17:10～17:30 まとめ

### フォーラムに参加する立命館大学生のコメント

#### ・生命科学部2年生

被災地に行き学んだことを、このまま忘れてはいけない。「記録には残るけど記憶には残らない」というのが被災地での印象的な言葉。記憶が薄れる前により多くの方に共有したかった。

#### ・国際関係学部3年生

様々な国の方やバックグラウンドを持つ方々と意見交換をし、自分の視野を広げ、台湾の学生の方たちとこれからのアジア・世界について真剣に議論したい。

#### ・法学部2回生

今回のプログラムを通して日本人として感謝の想いを伝え、これからの世界について一緒に考える機会とさせていただきたいと思った。

#### ・経営学部2年生

国をあげて一丸となって支援をしてくれた台湾。その台湾の学生の想いを直接聞きたい。以前の日本の支援が台湾ではどんな方法でみんなに伝わったのかを聞きたい。

## <パネル展示と3月11日にむけたメッセージボード>

東日本大震災発生直後の被災地の様子や立命館大学の復興支援の取り組みを紹介します。また日本人学生たちが自ら撮影したスナップ写真を掲示し、淡江大学の学生から被災地にむけたメッセージをもらいます。メッセージは3月11日に立命館大学で開催する追悼イベントで紹介する予定です。

時期：2013年3月8日（金）～3月15日（金）

場所：淡江大学 図書館1Fロビー

### 【パネル展で紹介する写真（一例）】



・東日本大震災で壊滅的な被害を受けた岩手県宮古市の海岸。震災発生から2年を迎える今も、復旧が進んでいない場所が数多く存在します。立命館大学では定期的に学生が被災地を訪れ、瓦礫撤去や海岸清掃、仮設住宅でのイベント開催などの支援を行っています。

以上